



# 25th 思えば遠くへ来たもんだ!!



原の初日の出

2024年は、衝撃的なスタートでした。元日の能登半島地震、2日には航空機事故と平穏な正月気分をひっくり返す衝撃的な映像が続きました。新聞は、止む気配のない世界の戦乱や日本のGDP（国内総生産）が世界4位に下落したこと、日本社会の人口減少・超高齢化が予想以上のスピードで進展し国力は低下し続けることを伝えていました。時に政界は、「裏金」問題で紛糾し、お偉い「先生」の厚顔無恥ぶりがあからさまになりました。総じて、いよいよ日本の「劣化」極まれました。でも、初日の出は今年もとても綺麗でした。小子の婆ちゃんは、明治生まれの土と共に生きたお百姓さんで、生前は仲良しでした。婆ちゃんは、つねづね「お天道（てんとう）さまはいつも観てるから」と語っていました。ああこれが庶民の「道義」（人の行うべき正しい道）なんだなと思ってきました。お日様に合掌して、地道にコツコツと日々を暮らし、自分も「斯く（かく）ありたい」と思いました。

右表のように、吉岡里山活動は、1999年、熊谷市職員の自主研究グループ『倶楽部 2033』が始めた「里山（吉岡山）の再生」活動に地域の企業やボランティア団体が協力したことが発端です。その輪は、地域の皆様のご理解の下、中学校PTAや生徒、自治会員、立正大学生、個人ボランティアへと広がりました。あれから四半世紀、2024年は25周年を迎えます。思えば遠くへ来たもんだ！！です。この間、この活動を支えてくださった皆様に敬意と感謝を伝えたいと思います。そして、この活動が次の世代へと引き継がれることを願います。この活動は、時代を象徴するキーワード、sustainable（サステナブル：持続可能な）・環境保全・生物多様性・自然資源・地域コミュニティ（共同体）・地域愛…などとの関連が深いからです。

年号		主なできごと
1999	平成11	市職自主研究グループの「竹炭づくり」に協力
2001	平成13	県の活動認可「吉岡八幡里山ランドワーク」
2011	平成23	さいたま環境賞
2013	平成25	市環境表彰
2016	平成28	彩の国シラコバト賞 市環境表彰
2019	令和1	遊歩道の整備開始
2022	令和4	北側斜面に階段整備

里山の2月の活動は、中学校前の林の整備と12月に行った間伐木の重機による粉砕が、有志によって行われました。2月11日（日）の定例会は、30数名が参加して、青空の下、落ち葉集めと焼き芋会を行いました。当日は、小林市長様、市民活動推進課長様が来訪され、ご挨拶をいただきました。ありがとうございました。



重機で粉砕



写真担当  
立正大学  
地球にやさしい会



落ち葉集め



焼き芋準備



焚き火 & 焼き芋会

次回活動日

3月10日（日） 9:00～11:00（雨天中止）

ヤマツツジの植栽を予定

随時参加者募集！作業に適した服装で、吉中にお集まりください。